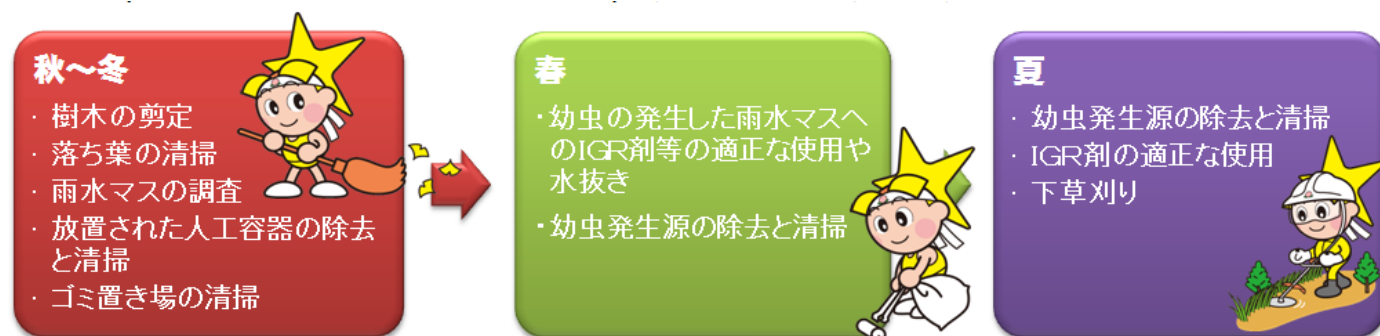


3. ちょっとしたことが蚊の防除につながります

〈ポイント〉

- ① 不要な水たまりをなくす。(週に1回、水を捨てる。)
- ② 撤去できない水たまりは、定期的な清掃、換水、薬剤の適正な使用などで対応する。
- ③ 水たまりへの成虫の侵入を防ぎ、産卵を防ぐ。
- ④ 天敵(金魚、メダカなど)を利用する。

〈季節別の防除対策の例〉



今のところ、デング熱などのウイルスは、国内には定着していないと考えられていますので、蚊に刺されても、過度に心配することはありませんが、海外の流行地へ出かける際には、特に蚊に刺されないための対策を心がけましょう。

デング熱などの予防には、蚊に刺されないことが重要です。

蚊が多い場所では

- 肌を露出しないよう、長袖、長ズボンを着用しましょう。
- 素足でのサンダル履きを避けましょう。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選びましょう。
- 肌が露出する部分には虫除けスプレーなどを使用しましょう。
 - 足首、首筋、手の甲などにも注意
 - 虫除けスプレーは汗で流されることに注意
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけないようにしましょう。
- 家の中に入ってこないよう、網戸などを利用しましょう。



岡山県

蚊は嫌ですね

ちょっとしたことで蚊は減らせます！

平成26年夏、約70年ぶりに**デング熱**の国内感染例が報告されました。デング熱は**ヒトスジシマカ**という蚊が媒介する感染症で、同様な感染症として**チクングニア熱**、**ジカウイルス感染症(ジカ熱)**などもあり、海外では流行している地域がたくさんあります。

近年、グローバル化の進展により、蚊が媒介するウイルスの国内への流入が懸念されています。外出時の長袖・長ズボンの着用や忌避剤(虫除けスプレーなど)の適正な使用により、蚊に刺されない工夫をすることも必要ですが、蚊の発生を減らすため、家庭や施設でもできることがあります。

地域全体で蚊を少なくすることが、感染症の発生防止につながります。

1. ヒトスジシマカの重要な3つの特徴



© 岡山県「ももっち・うらっち」

ヒトスジシマカの幼虫(ボウフラ)は、バケツのような、小さな水たまりに発生し、10日ほどで成虫になります。そのことも含めて、3つの大事な特徴を紹介します。



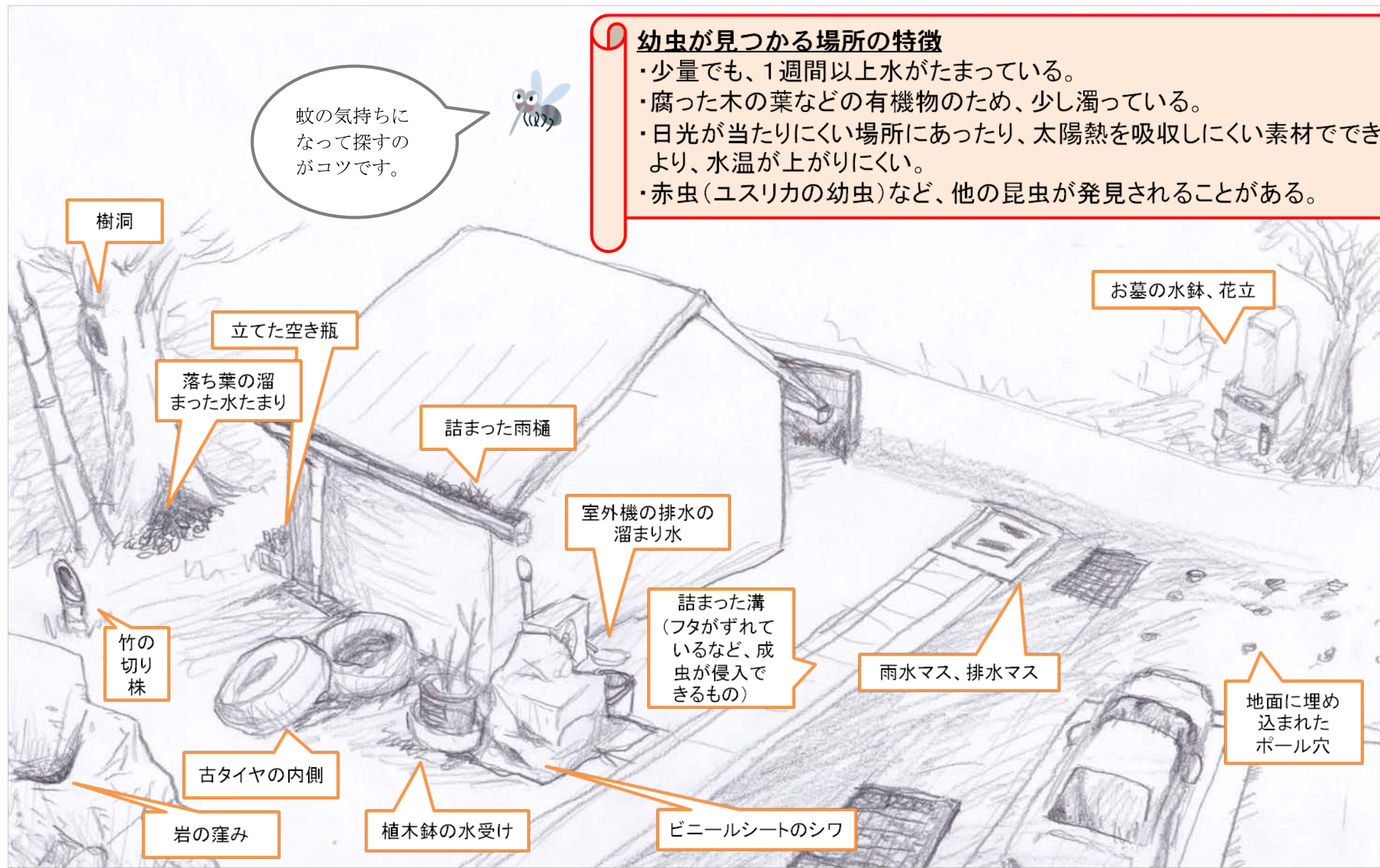
2. こんなところが幼虫の発生源です

蚊の気持ちになって探すのがコツです。



幼虫が見つかる場所の特徴

- ・少量でも、1週間以上水がたまっている。
- ・腐った木の葉などの有機物のため、少し濁っている。
- ・日光が当たりにくい場所にあったり、太陽熱を吸収しにくい素材でできていることにより、水温が上がりにくい。
- ・赤虫(ユスリカの幼虫)など、他の昆虫が発見されることがある。



	主な発生源(例)	とるべき対策	特徴的场所		主な発生源(例)	とるべき対策	特徴的场所
普段目にする場所	雨水マス、排水マス、テント用ポール穴 	・蚊が侵入できない程度の網でふさぐ ・コンクリートや土で埋められるのなら埋める ・撤去を検討する ・定期的な(週1回)水の除去、幼虫の除去 ・IGR剤の使用 ※IGR剤: 昆虫成長制御剤。昆虫に特有の脱皮や変態を妨げ、最終的に殺虫効果を現す薬剤。ほ乳類や魚類に対する毒性は低い。用法用量を守って使用する必要がある。業務用だったが、一般向けの販売も開始された。	土の多い公園 庭園 庭先 施設の駐車場	盲点になりやすい場所	放置されたビニールシート、用具類、タイヤ 	・放置物は撤去する ・流れない溝や詰まった雨樋は定期的な清掃 ・古タイヤは水抜き穴を開ける、コップ半分程度の塩を入れるなど ・竹は、できるだけ水がたまらないように、節の上から切る。難しい場合はコンクリートや土で埋めるなど	施設 公園 庭園 建物の裏
	木の洞、落ち葉の溜まった水たまり 				流れない溝、室外機の廃水のたまり 		
	屋外の静置物、手水鉢、植木鉢の受皿 				詰まった雨樋、竹の切り株、墓の水鉢・花立 		